

3 全ての学習の基盤となる資質・能力

こんな実践

総合的な学習の時間を通して培った地域への思いが元になり、自分たちの手で地域へ貢献することができる生徒会をつくりたいという願いをもって主体的に動き出した生徒たち。その具現に向けて、既存の生徒会の形を大きく変えていった学びの事例。

実践学校 E中学校

実践学年 2学年

実践時期 10月～12月

単元・題材名「地域に貢献できる生徒会をつくろう」



(1) 生徒の必要感を生む状況設定

- E中学校の総合的な学習の時間は、地域の活性化をテーマに自ら課題を見つけて探究するアントレプレナー学習に取り組んでいます。活動の中で地域の方と関わる機会が必然的に多くなるため、生徒の中に「自分も地域の一員」という意識が強く芽生えています。
- 2年生が生徒会の立ち上げを模索し始めた頃、御柱を祀ってある神社周辺が台風で散らかってしまったことがありました。その神社は学校の目の前にあり、通学路として生徒が行き来していたにもかかわらず、近所のお年寄りが片付けをしている中で誰も手を差し伸べることができませんでした。教師はこのような予期せぬ出来事が生じた際に、生徒自身が主体性を発揮し、様々な資質・能力を駆使して実践的な活動を行うことができたらと考えました。そこで、自分たちの生徒会の姿を模索し始めた2年生に、地域貢献できる生徒会づくりに挑戦しないかという提案をしました。これをきっかけに、生徒のやる気が一気に高まり、生徒会の仕組みを大きく変えていこうという挑戦が始まりました。生徒たちは、地域貢献への意義や価値について話し合い、今ある生徒会をどのように変えていけば良いかという話し合いが幾度となく開かれました。

(2) 考えるための技法を活用する

- 新しい生徒会立ち上げへの関心や意欲の高まりを捉えた教師は、委員会活動が、地域貢献につながるような活動や、既存の活動の質をより高くするアイデアも生み出してほしいと願い、ワールドカフェ方式を取り入れた話し合いを構想しました。具体的には、視点をもった話し合いができるようにするために、現在取り組んでいる全ての委員会活動をマグネットにしました。そして、縦軸に「残すべき」「無くしても構わない」、横軸に「学校生活をよりよくする活動」



「地域貢献につながる活動」という判断軸で分けしたホワイトボード上で動かしながら意見交換できるようにしました。また、新しく浮かんだ考えなども付箋に書いて貼ることができるようにしました。この話し合い活動を通して、どのテーブルでも40分近くの時間、意見が尽きることなく対話が繰り返されました。生徒自身が活動に必要感と期待感をもっていただけから、主体的で対話的な姿が各テーブルで見られました。



ここがポイント

自分の考えを明確にもって活発に話し合いができた理由は、まず一つには、自分たちが引き継ぐことや地域貢献をしたいという必要感があったことが挙げられます。そして二つ目として、少人数で気軽に意見交換できる場が保障されていたことが挙げられます。さらに三つ目として、マグネットや付箋で考えを視覚的に捉えながら話し合うことができたことが挙げられます。このように必要感を生む状況作りや思考力・判断力・表現力を働かせて話し合う技法の工夫によって、探究的な学習活動の充実が見られました。

(3) 全校生徒を巻き込んだ活動へつなげる

- その後学年32名という単級の中で、6名の生徒が生徒会長に立候補をしました。生徒会長に立候補した候補者たちは、「地域貢献」へのそれぞれの思いを強くもって立会演説会に臨み、パネルディスカッションの中で熱い討論を交わしていきました。
- そして立ち上がった生徒会では、全校生徒を巻き込みながら様々な地域貢献活動に取り組んでいきました。一年後、再び台風で神社周辺が散らかると、そこには積極的に箒や一輪車を手に取って向かう生徒の姿がありました。

地域への貢献など、今までの生徒会以上に地域を大切に作る取り組みを始め、地域の方との交流を大事にした地域に密着した学校にしていきたいです。

アントレ、生徒会など全ての活動がつながりをもった生徒会を創っていきたいと思います。



ここがポイント

地域に自ら働きかけることのできる実践の機会を全校生徒に委ねながら地域貢献の経験を積み上げてきたことが、生徒の意識を変え、主体的な姿を引き出していたのです。

まとめ

生徒が話し合っ解決の糸口を探る際には、考える技法が、比較や分類を容易にしたり多面的な捉えや多角的な考えを引き出したりすることに役立ちます。このように論点を整理しながら話し合いを深めることは、全ての教科に役立つ基本的な資質・能力を育成することにつながります。